

中京大学卒業式 学長式辞

本日、ここに卒業式が開かれますことを、皆さんとともに喜びたいと思います。昨年はコロナ禍で卒業生が一堂に会して式を行うことができず、WEB卒業式となりました。一緒に集まって喜びを分かち合いたいの卒業生の思いを叶えることができませんでしたから、喜びも一人^{ひとしお}です。

皆さんにとって卒業を前に学びを^{まよ}纏め、卒業後の生きる場を求めていく学生生活の集大成となる大切な年であったはずのこの一年は、予想だにしない、新型コロナウイルスの世界的蔓延により大きな《試練》の年となりました。感染症そのものの脅威だけでなく、人間にとって大切な、人とともに生きることが制限されるという苦痛を強いられました。人とのコミュニケーションの取り方に大きな支障が生じるという未経験の困難の中で、大学の授業も、通学して友人とともに教員から直に講義を受けて学ぶという、無意識のうちに送ってきたスタイルから、自宅での遠隔授業を取り入れざるを得なくなりました。本学でも春学期は感染者が出ないようにと学生・教職員の安全を最優先にしながら、オンラインを基本とした授業としました。学生・教職員の皆さんの懸命な対応により、春学期を乗り切りました。しかし、入学式もなく、登校できないまま同級生や教員と会うこともままならないでいる新入生の辛さは大きな課題と受けとめました。大学として、就活の大事な段階にある4年生への支援が十分にできないという辛さも経験しました。また、経済的に苦しい状況に追い込まれている学生たちが多いことも常に思い浮かべ、休学や退学に追い込まれることがないように可能なかぎりの経済支援策も講じました。秋学期は、そうした思いを込めて、他大学に先駆け、感染防止策を十分にとったうえで、大規模授業はオンラインとしながら基本〈通学対面型授業〉としました。課外活動でも不自由をおかけしましたが、皆さん良く辛抱してくださいました。力を合わせてくださった皆さまにあらためて感謝いたします。

建学の精神の四大綱、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」がさまざまな面で生きて働いたと、感動しています。

皆さんにとっては、これらの困難を乗り越えての卒業です。よく耐えてこの日を迎えられることに心より敬意を表します。おめでとう。

《試練》は、辛いものです。しかし、そこでは何事もなく過ごしているときにはない深い意味に気づかされます。また、それに立ち向かうことによって新たな発見をすることができます。成長や発展にも導かれます。《試練》の「試」は自身の対応力が「試される」、その中で今までにはなかったことを「試す」という意味を持っています。そして、《試練》の「練」はそれらを通じて自身・社会が「練られて」いくことに通じます。

変異株を含め、なおしばらく COVID-19 とのせめぎあいが続くでしょうが、人類は「試され」、ワクチン開発や新しい生活習慣等新しいことに「チャレンジし」、社会の在り方・人間としての在り方においても「練られて」います。

古今東西、多くの表現があります。日本語では「艱難汝を玉にす」「玉磨かざれば光なし」、英語では“Adversity makes a man wise”(逆境は人を賢くする)、Storms make oaks take deeper root”(嵐は、櫟の木に、いっそう深い根を張らせる)といった^{ことわざ} 諺があります。われわれは苦難を通して、自らの人生という根をよりしっかりと生活の土台たる大地に深く張らせたものです。

いや、皆さんは今回の試練を通じて確実に、今まで気づかなかったものに気づき、そこに新たな意味を見出し、新たな勇気と希望を与えられたに違いありません。皆さんはこれからの時代を生きていく人たちです。重荷としてでなく、着実に新しい課題に挑んでいくチャレンジのうちに生きていってください。大学は常に皆さんを応援します。

1974 年以來 47 年この大学で学生の皆さんとともに過ごしてきた私の実感するところですが、中京大学はいつの時代にも社会の動きを見つつ、新たなことに挑戦してきた大学です。2024 年には創立 70 周年を迎えますが、これからも時代に先立つ大学であり続けることでしょう。皆さんにとって、中京大学は常にいつでも立ち寄ることのできる母なる港・母港、学びを養ってくれた母なる学び舎・母校です。皆さんのうちにいつもある存在です。ご健闘を祈ります。

最後に少しばかりわたくしごとをお話しさせていただくことをお許しください。今、この式辞は種田副学長にお読みいただいています。2 年ぶりの卒業式に皆さんに直接エールを送ることを楽しみにしていました。ところが、2 月中旬突如体に異変が生じ、即入院となりました。心筋梗塞でありました。幸い一ヶ月の入院を経てようやく退院できましたが、まだ体力に自信なくこの場に立つことができません。残念です。申し訳ありません。従って、私も皆さんとともに今年度で中京大学を卒業いたします。47 年間本学に身を置くことを許され、大学の発展を身近に実感できたことを大変うれしく、また誇りに思います。そして、何よりもうれしいことは今年度の秋学期まで授業を行い、直接学生の皆さんと学びの場をもつことができたことです。私の本学での教員生活のささやかなモットーは、「教室を離れては学生と個々の人間として触れ合いたい」でありました。実際に多くの学生と出会い、今も各地で活躍する姿に触れています。これはかけがえのない私の財産です。学長就任時に掲げた「大学の主人公は学生」もこのところに^よ 拠ります。この先も、学生の皆さんが存分に学び、力をつけて「自ら考え、行動できる、しなやかな知識人」として巣立っていける学び舎がさらに発展することを願っています。ありがとうございました。

皆さんの前途に栄光あれ！

2021 年 3 月 19 日
中京大学長 安村 仁志
(代読 副学長 種田行男)